

## 主 題：感謝の人生5

## 聖書箇所：ローマ人への手紙 12章1-2節

詩篇の著者はこのように言いました。詩篇92：1「主に感謝するのは、良いことです。いと高き方よ。あなたの御名にほめ歌を歌うことは。」どの時代の人であっても、神の恵みによって救われた一人ひとは、神を感謝する者へと変わりました。主の偉大さが分かったときに、心からの称賛が湧き上がってきます。主の完全な聖さが分かったときに、私たちの心の中に恐れが湧き上がってきます。どれ程聖い神の前に今自分が立っているのか、それを考えるときに、当然、私たちのうちにはそのような思いが出て来ます。そして、このような偉大な聖い正しい神が私に関心を示して、主イエスのいのちと引き換えに救いを賜ったことを覚えるときに、その心には感謝が、その心には礼拝が湧きあがって来ます。

アイザック・ワットが記した有名な讃美歌142、

1. 栄えの主イエスの 十字架を上げば、世の富誉れは 塵にぞひとしき

5. ああ主の恵みに むくゆるすべなし、ただ身とたまとを ささげてぬかずく

神のすばらしさを味わえば味わうほど、すばらしいと思っていたこの世のことがいかにむなしいものか、そのことに気付くし、神の恵みに気付くほどに、何をもってこの方に私の感謝を現わしていこう、どのようにこのすばらしい主に応えていこう、私のすべてをささげていこうと、そのような反応が起きてくるのは当然のことです。時代を越えて、皆さんの中にも間違いなくそのような思いが与えられたはずですし、与えられていることを願います。

## ☆救われた者の主なる神への正しい応答

すでに私たちは、主の恵みによって救われた私たちキリスト者が、主への感謝をどのように現わしてゆくのか、そのことを見ました。二つ見ました。

A. からだをささげる＝私たちのすべてをささげる

B. 心をささげる＝具体的にどのようにするのか、そのことも見ました。外側が、新しくされた内側と一致するようにと、二つの命令を与えました。

## 1. この世と調子を合わせてはいけません : 否定的命令

パウロが私たちに教えたことは、あなたは生まれ変わった、あなたの内なる人は新しくされた。それなら、内なる人にふさわしい生き方、行ないを為して行きなさい。かつての生き方に染まってはいけないう、この世の神を知らない人たちが生きている生き様に倣ってはいけないうということを見て来ました。パウロがエペソ人への手紙5：3-7で「あなたがたの間では、聖徒にふさわしく、不品行も、どんな汚れも、またむさぼりも、口にすることさえいけません。:4 また、みだらなことや、愚かな話や、下品な冗談を避けなさい。そのようなことは良くないことです。むしろ、感謝しなさい。:5 あなたがたがよく見て知っているとおりに、不品行な者や、汚れた者や、むさぼる者——これが偶像礼拝者です。——こういう人はだれも、キリストと神との御国を相続することができません。:6 むなしいことばに、だまされてはいけません。こういう行ないのゆえに、神の怒りは不従順な子らに下るのです。:7 ですから、彼らの仲間になってはいけません。」と言うように、聖徒にふさわしく生きなさいと言うのです。このような人々が溢れているのが私たちの世の中です。私たちもかつてそのような人だったのです。そこから救い出されたのです。ですから、「彼らの仲間になってはいけません。」とこれまでと同じような生き方をしてはならないと言うのです。

パウロはⅡテモテ3：2-5で世の中の終わりの警告をしています。このようになって行くと行きます。「そのときに人々は、自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、不遜な者、神をけがす者、両親に従わない者、感謝することを知らない者、汚れた者になり、:3 情け知らずの者、和解しない者、そしめる者、節制のない者、粗暴な者、善を好まない者になり、:4 裏切る者、向こう見ずな者、慢心する者、神よりも快楽を愛する者になり、:5 見えるところは敬虔であっても、その実を否定する者になるからです。こういう人々を避けなさい。」と、このような生き方をしている人、このようなことを愛して歩んでいる人たちから離れなさいと言います。非常に賢明なアドバイスです。私たちが自分自身を正しく保とうとするなら、二つのことを心がけなければいけません。一つは、自分を誘惑するものから離れること、同時に、私たち自身が自らの心を聖く保てるように、いつも正しいことに触れていることです。

世の人がどのように言おうと関係ないのです。私たちが世の人に受け入れてもらいたいと思うなら、彼らと同じようなことば遣いをするでしょうし、彼らと同じような行動をするでしょう。そして、この世の人と同じような服装もするでしょう。私たちは違うのです。奇異に見られても当然なのです。私たちは生まれ変わったのです。この世から救い出されたのです。サタンの子もだったのが神の子もとされたらと、私たちは見て来ました。私たちは今までと生き方が変わって当然なのです。間違いなく、皆

さんのご家族は、救われた後の皆さんを見て、その違いに気付くはずです。自分自身では気付かなくても、私たちの周りが気付き始めます。この世にはたくさんの娯楽があります。音楽、映画、テレビ、本など、これらのものから私たちが受ける影響は、私たちが考える以上のものです。もし、私たちを惑わせて、かつての生き方に引き込んで行くようなものがあるなら、それらを避けることです。本屋さんに行くと、いろいろな自叙伝がありますが、その人たちの生き方から、私たちは何を学ぼうとしますか？ 私たちはイエス・キリストに従う者へと生まれ変わったのなら、私たちが学ぶべきはイエス・キリストの自叙伝です。イエスがどのように歩まれたのか、それが私たちにとって必要なことです。私たちがそのようなものから離れて、たとえば、世の中のベストセラーに心奪われてゆくなら、いつの間にか、知らず知らずのうちにそれらに巻き込まれてしまいます。

ベストセラーを読んで何か得るところはありますか？ 私たちは世界のベストセラーを手に入れているのです。2000年経ってもすたれることはないのです。この聖書は人々を根底から変える力をもっているのです。だから、パウロは言います。

## 2. 心の一新によって自分を変えなさい : 肯定的命令

自分を惑わすものから離れるだけでなく、今度は、新しくされた人にふさわしい行ない、生き方をする人へと変えられてゆきなさいと言います。パウロはエペソ5:8-9でこのように言います。「あなたがたは、以前は暗やみでしたが、今は、主にあって、光となりました。光の子どもらしく歩みなさい。:9 —光の結ぶ実は、あらゆる善意と正義と真実なのです。—」、これがあなたが生み出すものであり、同時に、これがあなたの特徴だと言います。世の中とは大いに違います。だから、そのためには、かつての虚しいもの、永遠の価値がないものに目を留め心に向けるではありません。なぜなら、私たちの心が行動に影響を及ぼすからです。心が大切なのです。世の中のどのような知恵をもって私たちの心は変わりません。神だけが心を変えることができるのです。信仰者の皆さん、よく覚えておいてください。世の中の知恵では私たちの心は変わりません。心が変わらなければ態度、生き方が変わって来ません。世の中の知恵は私たちの行動を変えようとしています。行動が少し変わったとしても、私たちの心を変えることはできません。心は神しか変えることができないのです。だから、世の中の知恵をもって救いを得ることはないのです。世の中の知恵をもって神を知ることはないのです。

私たちはいろいろなものに惑わされてしまって、何が真実なのか、何が正しいのか、混乱してしまっています。だから、しなければいけないことは、パウロが教えたように、聖書のみことばに立ち返ることです。あなたにとって必要なことは、聖書のみことばをしっかりと学んで、それをあなたのうちに蓄えて、神の助けによってそれを実践することです。この世の知恵に基づいて生きるのではなく、神の知恵に基づいて生きるのです。その生き方を神は祝され、その生き方に神の豊かな祝福がこの地上でも、そして、永遠にあるのです。パウロは私たちに教えます。救われたあなたは何のために神が救ってくださったのか、そのことを覚えて生きること。そして、主があなたを救うために為してくださった恵みをしっかりと覚えて、感謝をもって、この主のために生きて行くことです。

そのような生き方をするためには、あなたの心をいつも主にささげて、「どうぞ主よ、私の心をあなたのみことばで満たしてください。あなたが望んでおられることで満たしてください。私の心を変えていってください。そして、あなたのみこころのままに私を用いてください。」と願うのです。信仰者の皆さん、過去を振り返ることも私たちには必要なことですが、これからのことを考えるなら、私たちがイエスにお会いするときまで、どのようにして地上の生活を過ごして行きますか？主に用いられたいとそのような思いませんか？神があなたを救われたのは、神があなたを用いるためです。神のためにあなたは聖別されたのです。罪の中を生きている者を聖い神は用いることはできません。でも、罪の赦しをいただいて聖められた者を、聖い神の役に立つ者として神は用いてくださるのです。

そこで質問です。神に用いられたいと思いませんか？神に用いていただきながらこの地上の生活を終わりたいと思いませんか？主の前に立ったときに「よくやった！」と神からお誉めをいただくような人生を歩んで行きたいと思いませんか？それなら、神のみことばに従うことです。これが神が望んでおられることです。それを横において私たちの考えで生きても、そこには神の祝福はありません。「心の一新によって自分を変えなさい。」と、あなたの心を常に神の前に正しい思いで満たして行くためには、しっかりと神のことばを蓄えなければいけません。どうですか？この1週間、どれ位みことばを読まれたか？みことばを覚えていますか？神がこのようにゆきなさいと言われることを実践するために、そのことを覚えながら1週間で過ごされましたか？私たちがやろうとしていることと、実際にしていることには大きな開きがあると思いませんか？「神に従いたいです！」と言っているが、実際にやっていることは「従いたくありません」ということを生き方で示していませんか？聖書を開こうともしないし、メッセージを思い出そうともしない、考えることもない…、そのようであって、どうして「私は神に喜ばれている、神に用いていただける」と言えるでしょう？神の言われることに従うなら、神は不完全な私

たちをも用いてくださるのです。必要なことは、私たち自身が「主よ、どうぞ使ってください！」と言って、自らを神の前にゆだねること、同時に、神が喜んで用いてくださるようにならなければならないことです。パウロはそのことを教えるのです。

そして、今日は三つ目のことを見て行きます。

### C. 意志をささげる

あなたの意志をささげなさいと言います。結局、ここに帰って来ます。つまり、どのように生きて行こうとするのか、どのような選択をするのか、私たちの意志です。この2節の「いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、」という部分の文の初めに、目的、あるいは結果を表わす前置詞をパウロは付けています。つまり、パウロはすでに教えて来た「心を主にささげること」の結果をここで表わしているのです。もし、あなたが自らの心を主にささげて「主よ、どうぞ私の心をあなたが支配して、あなたが喜んで用いてくださるような者に変えていってください。」と歩んで行くなれば、結果として、このようなことがあなたに訪れるということをパウロは言うのです。その結果とは、「みこころに沿って生きる者となる」ということです。あなたの心を主にささげて歩んで行くなれば、あなたは神のみこころを知り、それに従う者と変えられて行くということです。神のみこころを知ってそれに従う者です。だから、神は祝されるのです。「従順な人」と言われるのです。従順な人とは神のみこころに従う人です。まさに、そのような人になって行くとパウロは言うのです。

#### 1. みこころを見つける

自らのからだを、自らの心を主にささげて歩んで行こうとしている人たちは、神のみこころは何であるかを見つける人になって行くのです。このようなことをよく聞きます。「私には神のみこころがよく分かりません。」と。その人は神のみこころが何かが分かっていないのです。神のみこころとは神が望んでおられること、願っておられることです。それが記されているのが聖書です。だから、みこころを知りたいと思うなら聖書を読むことです。ただ、毎日の生活において、何が神の前に正しいことなのか、何がみこころなのかを試されるときがあります。このような状況の中でどうすればいいのだろうか？この選択肢の中でどうすればいいのだろうか？どの選択が神の前に正しいのだろうか？と…。そのことに関して、パウロはこの2節でおもしろい説明をしています。

先ほど見た文の最後の部分、「わきまえ知る」という動詞は「検査する、試験する、吟味する、見出す、確認する、見分けることができる」という意味です。ですから、「わきまえ知る」とは「検査、審査をした上で承認された、その過程を経て分かった」という意味なのです。このことばはいろいろなところで使われていますが、多くの場合、日本語では「見分ける」と訳されています。たとえば、ルカの福音書12：56には「偽善者たち。あなたがたは地や空の現象を見分けることを知りながら、どうして今のこの時代を見分けることができないのですか。」とあります。雲の様子で明日は晴れるとか、嵐がやって来るとか、みな、そのようなことには知恵があります。それなのに、今の時代がどうなっていくのか、何が正しいのかを見分けることができないのか？というのです。また、エペソ5：10には「そのためには、主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい。」と記されています。同じことばです。ピリピ1：10の初めには「あなたがたが、真にすぐれたものを見分けることができるようになりますように。」とあります。Iコリント11：28には「ですから、ひとりひとりが自分を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい。」と書かれています。

つまり、ここで描かれているのは、非常に霊的な神に喜ばれる人の姿です。その人は自分のからだも心もすべて神に明け渡しています。「神さま、あなたに喜ばれます。あなたに用いられます。」といつも自らを主にゆだねながら歩み続けている人、その人は日々の生活において、いったい何が神の前に正しいのかをよく考えて、それを見分けることができる、そのような人へと変えられて行くということです。とても素晴らしいことです。神の前に何が正しいのかを考えながら、正しい選択をしながら生きて行く、そういう人に神はあなたを変えようとしているということです。それを邪魔するのは、いつも私たち自身の願いです。主のみこころに従おうとするときにそれを妨げるのは、私たち自身の願望です。「こうしたいのです。これをやりたいのです。こういう選択をしたいのです。どうぞ、それがみこころになりますように。」と、このような祈りをするのが信仰者の間でも多いです。なぜなら、自分の願いがいつも最善であると思うからです。ただの思い付きではなく、いろいろな方向から考えてこれがベストだと思うのですが、後になってから、そうでなかったことに気が付きます。また、その選択をする過程において、自分ではそう思い込もうとしているけれど、心の中ではそれは正しくない分かっている。パウロはあなたが神に喜ばれる歩みをして行くときに、自らをゆだねて歩んで行くときに、神のみこころは何かを見極めることができる人になって行くと言うのです。なぜでしょう？

◎どうしてみこころを見つけることができるのか？

## (1) みこころに従って生きているから

からだだけでなく心もすべて主にゆだねて生きて行く、その生き様こそがみこころに従った生き方だからです。その人は「私はあなたにすべてをゆだねます。どうぞ、主よ、私を使ってください。」と言います。自分の我を通そうとしません。神が望んでおられることをやろうとしているのです。そういう生き方でなければ、たとえ、神がみこころを示されたとしても、それが自分の望んでいることと違った場合、それを選ぼうとはしません。このように言えます。みこころに従って生きるということは、神のみことばに従って生きる人です。何度も言いますが、みこころはこれ、聖書です。よく私たちがする間違いは、私たちの常識、私たちの経験で生きようとする事です。ときには、「自分の良心の声に従って…」と言います。世の中では「良心の声に耳を傾けなさい」など、いろいろなことを言いますが、言えないことは「神のみことばに従いなさい」です。

よく考えてみると、この世の中が私たちに言うこと、言って来たこと、その生き方はイエスを知らなくてもできます。良心の声に従うとか、常識に従うなど、イエスを信じていなくてもそのような生き方はできます。問題は、救われた後もかつてと同じような生き方をしようとする事です。かつては、みことばがなかった、神がいなかったのですが、救われた私たちは神と和解し、みことばをいただきました。これがみこころだと神は言われたのです。だから、私たちの生き方は変わったのです。みこころに従うためには主のおこころを知ることが必要です。主が何を望んでおられるのか？主が何を嫌っておられるのか？かつて、私たちの教会でも「教会戒規」を行なったことがあります。目的は一つです。罪を犯している兄弟がいたなら、その罪を示してその罪を悔い改めさせることです。確かに、難しいことですが、聖書が教える愛の行為です。そのときの様々なやりとりを今でも思い出しますが、ある人はこのように言いました。「牧師と話すとき聖書では太刀打ちできないから、常識で対応しよう。」と。これは教会ではありません。神のみこころに従うべきクリスチャンが、神のみことばに従うべき教会が、世の中の知恵をもってみこころを判断することは不可能なことです。どれだけ教会が世俗化してしまっているかです。主のみことば、これは神のみこころを現わしています。神の言われたことに私たちは従って行くのです。なぜなら、それがみこころだからです。そして、もう一つ付け加えるなら、みこころは聖書の教えに反するものではないということです。

多くの人たちが、みことばがしてはならないということのみこころだとして説得しようとしています。有り得ないことです。詩篇40：8には「わが神。私はみこころを行なうことを喜びとします。あなたのおしえは私の心のうちにあります。」とあります。著者も言います。みこころを行なうために神のみことばが私のうちにあると…。旧約の時代でも同じです。みこころに従うことは神のみことばに従うことです。詩篇119：105「あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。」、つまり、みことばがどのように生きて行くべきかを私たちに示してくれるということです。

## (2) みこころに従うことを望んでいるから

ダビデ＝詩篇143：10で「あなたのみこころを行なうことを教えてください。あなたこそ私の神であられますから。」と言って、みこころを神に聞こうとしています。ダビデ自身そのようにしてみこころに従って行こうとしていたのです。

主イエス＝ヨハネ6：38に「わたしが天から下って来たのは、自分のこころを行なうためではなく、わたしを遣わした方のみこころを行なうためです。」とあり、このことを繰り返して言われました。

ですから、主のみこころに従うということは、それが自分の思いや願いと違って、喜んで従うということです。それがみこころに従う者の選択です。自分の思いや願いがみこころと違った場合、それを喜んで捨てることが出来る、それこそがみこころに従って行こうとしている人の姿であり、そのことの証拠です。イエスがゲッセマネの園で言われたこと、ルカ22：42「父よ。みこころならば、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、みこころのとおりにしてください。」、まさに、イエスは常に父なる神のみこころに従い続けてゆこうとされました。

ですから、パウロはエペソ5：17で「ですから、愚かにならないで、主のみこころは何であるかを、よく悟りなさい。」と言っています。皆さん、みこころに従って生きて行きたいという願いは新しく生まれ変わった者の特徴なのです。生まれ変わった者は新しい願いをもっています。神に喜ばれることをして行きたいという願いです。神を喜ばせたいという願いです。これは救われる前にはもっていなかった願いです。そして、救われた私たちは主とともに歩むことによって、先ほど見たように「わきまえ知る」ことができる者に変えられて行きます。エペソ5：10に見極めることへの命令がこのように記されています。「そのためには、主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい。」と。ピリピ1：10にはそれが出来ることを確信してパウロはこのように言っています。「あなたがたが、真にすぐれたものを見分けることができるようになりますように。」と。

イエスを信じて救われた人たちは、主のみこころを求めて生きて行こうとする人に変えられます。そ

して、パウロは確信していました。必ず、彼らは主のみこころを見出し、それに従って行くと。ですから、パウロはこのローマ12：1-2で言うように、私たちが自らの意志を主にゆだねていくということは、「神さま、どうぞ私を助けてください。私が今日為すすべての選択において、あなたに喜ばれることを選択したいです。」と願うことです。そのように生きて行く人です。だから、救われていると言えるのです。そして、感謝なことに、そのような生き方ができるとパウロは確信しているのです。そのためには、私たちの意志を主にささげることです。

「神のみこころに従おうとするとき、罪が邪魔して自分の思い通りに生きようと誘惑しますから、主よ、どうぞ、あなたの前に正しいことが選択できるように、その力、その知恵をください。人々と話をするときに感情的にならないで、あなたが喜んでくださることを話せるように、どうぞ、私を助けてください。だれかと接するその時間があなたに喜ばれるように、キリストのすばらしいかおりを放てるように私を助けてください。」と、私たちが為す選択のすべてを神にゆだねて行く、自らの意志を神の前にささげていくのです。主のみこころを見出してそのみこころに従っていくことは可能であると言えます。

### ◎主なる神のみこころを見つけるには？

#### (1) 救われること

救われていなければいけません。イエスを知らない人が神のみこころに従うことは不可能です。I テモテ2：4「神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。」

#### (2) 聖霊に満たされること

エペソ5：18b「御霊に満たされなさい。」

#### (3) 聖くあること

聖くなければ神のみこころを見ることはありません。みこころはあなたがたが聖くなることだと教えているからです。罪から離れることです。罪を犯したならそれを告白して神に聖めていただいて、そして、神の前を歩み続けていくことです。聖くあることが主のみこころだからです。I テサロニケ4：3「神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。」、I ヨハネ1：9「もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」

#### (4) 主に従順であること

どんなときにも主に従順に従っていくことです。信仰者として正しく生きようとすれば、いろいろな迫害がやって来ます。苦しいことがやって来ます。でも、それは起こることです。感謝なことに、そのような中であっても主はあなたを助けてくださるのです。

##### a) 従順に生きる者を主は喜ばれる

ピリピ2：12「そういうわけですから、愛する人たち、いつも従順であったように、私がいるときだけでなく、私のいない今はなおさら、恐れおののいて自分の救いを達成してください。」「達成に努めなさい」と言われます。

##### b) 従順に生きる者を主は助けてくださる

II テモテ3：12「確かに、キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。」、ピリピ2：13「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行なわせてくださるのです。」、主は私たちに「あなたの力で、あなたの意志で頑張る主に従って、主に喜ばれる者になって行きなさい」とは言っておられません。主があなたを助けてくださる、主があなたを変えて行ってくれる、主があなたを主に喜ばれる者へと変えて行ってくれるのです。でも、その働きがあなたのために為されるためには、主よ、私をそのように変えてくださいという、自らの意志が必要なのです。

##### c) 従順に生きる者に主は報いを与えてくださる

ピリピ2：14-16「すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行ないなさい。：15 それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代の中にあつて傷のない神の子どもとなり、：16 いのちのことばをしっかり握って、彼らの間で世の光として輝くためです。そうすれば、私は、自分の努力したことがむだではなく、苦勞したこともむだでなかったことを、キリストの日に誇ることがができます。」、あなたが従順に生きて行くなれば、神はすばらしい報いを与えてくださると記されています。

#### (5) 主に感謝すること

I テサロニケ5：18「すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」

イエスを信じなければいけないし、あなたは聖くなければいけないし、あなたが御霊に満たされなければいけないし、従順であることが必要だし、そして、どんなときでも主に感謝することです。なぜなら、それがみこころだからです。そのように神が命じておられるからです。

もう一度ローマ書に戻って、12：2の三つの形容詞を見てください。

## 2. みこころは何か

「神のみこころは何か、」と記された後を見てください。「すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかを」とあります。三つの形容詞が記されています。つまり、「良いこと」「神に受け入れられる」「完全である」と、神のみこころとはどのようなものなのかを神ご自身が証されているのです。

### ◎神のみこころとは？

- (1) 「良いこと」：神の前に正しいこと、立派なこと、神に喜ばれる事物
- (2) 「神に受け入れられ」：神に喜ばれること、神の意に適ったこと
- (3) 「完全である」：完璧なもの

これが神のみこころだということです。神のみこころ、すなわち、それは神の前に正しいことであり、神に喜ばれることであり、神のご意志に沿ったものであり、そして、完璧なものであると。だから、私たちクリスチャンは、そのみこころを求め、そのみこころに従って行こうとするのです。

**結論** これまでのすべてをまとめると、パウロが私たちに教えてくれたのは「そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。」、当時のローマの人々に対するのと同じように、「主イエス・キリストがあのかの十字架の上で何を為してくださったのか？どのような犠牲のもとに私たちは今こうして救いを楽しんでいるのか？数われたことを喜んでいいのか？それをしっかり覚えなさい。すべては神のあわれみです。」ということです。神があなたをあわれんでくださり、神があなたの内に働いてくださり、神があなたを罪から救い出してくださり、そして、役に立たなかったあなたを神に役に立つ者と生まれ変わらせてくださった、これはすべて神の恵みだと言うのです。

信仰者の皆さん、私たちは地上にいて、この偉大な神にとって役に立つ者として神に使っていただくことができるのです。そうして私たちは人生を過ごし、そうして人生を終えることができるのです。そのときに主の前であなたは豊かな祝福をいただくのです。「よくやった！」と。そのような祝福を神は私たちにくださったのです。だから、このすばらしい神のあわれみを覚えた人は、そのように生きていきたいと願うし、そのように用いられたいと願います。そのために自分のすべてをささげようとするのです。からだも心も自らの意志も…。「主よ、どうぞ私を使ってください。あなたの栄光を現わす器として私を使ってください。あなたのすばらしさを人々に伝える者として使ってください。職場でも、周りにはイエスさまを知らない人が溢れています。だから、どうぞ、私を使ってください。あなたがどんなにすばらしいお方であり、人類にとっての唯一の希望であることを証するためどうぞ私を使ってください。家庭でも救われていない者がいます。彼らの前に正しくあなたを証できるように私を支配して下さって私を使ってください。私の話すことばも、私の態度も、私の服装も、私のすべてのことがあなたに喜ばれるように、主よ、助けてください。」と。

ファニー・クロスビーは聖歌232にこのように記しています。

『 罪、咎を赦され、神の子となりたる 我が霊の喜び、比べうるものなし  
主に全く従い、安き得し我が身に 天つ家の歌声 響き来る心地す  
主のものとせられし 我が身こそ幸なれ 感謝なき日はなく 賛美なき夜は無し  
日もすがら証せん 夜もすがら主を誉めん  
「御救いは妙なり 御救いは奇し」と 』

このような日々をあなたも私も歩むことができます。彼女はそのように生きたのです。多くの信仰者がそのように生きて来たのです。何がカギだったのでしょうか？このように生きた人々は、救われたことを感謝していたのです。罪赦されたことを感謝していたのです。その主を仰ぎ見て、その主に感謝をもって生きていたのです。

皆さんの信仰生活はどうですか？問題は、私たちが何を言うかではないことはもう明らかです。どのように生きていくかです。パウロはここで私たちに、どのように生きていくべきかを教えてくれたのです。すべてをささげて主に用いていただこうとします。私たちが誉められるためではありません。主に感謝したいからです。主に私の感謝を表わしたいからです。主はすばらしいことを成してくださった。それに答えるためです。パウロは言いました。「それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です」と。

主が喜ばれる礼拝、それは救われた感謝に溢れた心から生まれ出るのです。皆さん、救われたことを感謝していらっしゃるでしょうか？皆さんはすべてをささげてこの主のために生きたい！この方のためだけに生きたいと願って、自らのからだも自らの心も、自らのすべての選択もその意志も主にささげて、主に喜ばれるために生きようとしていらっしゃるでしょうか？もし、そうでなかったら、今から始めることです。主は赦して下さる。そして、今日からあなたのうちに働いて下さる。でも、そのためには、あなたがそのことを願わなければいけません。そのような歩みをしていきたいとあなた自身が選択しない

といけません。そのときに主があなたのうちに働いて、約束されたようにあなたを用いてくださるので。主に役に立つ者として今日から新しい歩みが始まります。正しい選択をしてください。主のみこころに沿って歩み始めてください。そのことがあなたのうちに成されることを心から信じます。

主イエス・キリストの御名によってお祈りしましょう。「父なる神さま、今日もこうしてあなたが導いてくださってこのみことばを私たちに与えてくださったことを感謝します。主よ、どうぞ私たち一人ひとり、あなたによって先に救われた者たちが自らの歩みを吟味して、いつの間にか、私たちの信仰生活において最も大切なあなたへの感謝を見失っていないかどうか、それぞれの心を吟味した上で、感謝をもって喜びをもって、あなたを称えながら、あなたにすべてをゆだねて従って行くことができますように。主よ、どうぞそれぞれの心に働いてください。そして、今日から、救われたことを感謝する者として、救ってくださったあなたに感謝を表わす者としての歩みを為してゆくことができるように助けてください。どうぞ、私たちを用いてください。あなたのために、あなたの栄光を現わすために。一人ひとりの上にあなたのみわざがなされることを心から願って、イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。」

### 《考えましょう》

1. 救われたことへの感謝を忘れてしまうのはどうしてでしょう？
2. 日々救いを感謝しながら歩むためにはどうすればよいでしょうか？
3. みこころはどうしたら見出すことができますか？
4. みこころに従って歩んでいるかどうかは、どうすれば分かりますか？